

技術士 1 次試験に合格して



岩村 桐子

(いむら とうこ)

勤務先

和光技研 株式会社

技術第 1 部 河川海岸グループ

〒063-8507 札幌市西区琴似 3 条 7 丁目 5-22

TEL 011-590-0283 FAX 011-611-0227

E-mail t.iwamura@wako-giken.co.jp

■ 専門：環境部門

○自己紹介

私は学生時代に鉛汚染土壌の環境修復について研究をしていました。研究では土を常に扱っていたため土に関わる仕事がしたいと思い、土木の世界に足を踏み入れました。

現在は建設コンサルタント会社に勤務し、漁港、海岸施設の設計や機能保全計画の立案等を行っています。バックグラウンドが化学であったため、慣れないことや今までの常識が通じず、戸惑うことも多々ありますが上司や先輩に助けて頂きながら日々業務に励んでおります。

○受験に至るまで

私が技術士という資格について知ったのは、就職活動の時期でした。その際には土木業界にもいろいろな資格があるのだなというぼんやりとしたイメージしか持っておりませんでした。入社してから技術士の重要さと、取得の困難さを知りました。同時に自分の未熟さも実感し、少しでも会社の役に立てるようになりたいと思い、受験を決めました。この他に、同期に負けていられないという負けん気や、自分の力量試しをしたいなどの考えもありました。また、私は悠長に構えてしまう性格なので、申し込んでしまわないと先延ばしにしてしまうだろうと考え、思い切って申し込むことにしました。

○受験体験記

受験を決めてすぐに行ったのは、合格した先輩に勉強法を聞いたことです。先輩方は皆、「過去問題の演習が重要だ」と答えてくださったので過去問を解くことはすぐに始めました。問題集はなるべく解答が詳しいものを選び、間違えた問題を重点的に反復しながら、解ける問題を増やしていきました。

基礎科目はこの方法で解けるようになったものの、専門科目には過去問題の演習だけでは不安がありました。そのため、問題集とは別にキーワード集を購入し、就寝前の時間などに眺めて、少しずつ重要な部分を覚えていきました。

学生時代から家庭での演習が苦手だったため学習は会社で行い、就業前や昼休みを活用して問題集を解いていました。会社が気兼ねなく学習に取り組める環境だったことが、本当にありがたかったです。

試験当日はとにかく焦らないように注意しました。特に専門科目は全問解答の必要がないため、解き終わった後も何度も確認を行いました。私の場合は 2 回確認をしたところで、一問多く解答していたことに気付いたので、確認が重要であるということ強く実感しました。

○今後に向けて

現在はちょうど技術士へのスタートラインに立ったところだと思っています。技術士への道はまだまだ険しいです。業務を通じ自分の至らなさは常々感じております。実務経験も足りていないため、この期間に上司、先輩のお力添えを頂きながら少しずつ実力をつけていきたいと思えます。また、資格を通して新しいつながりもでき、自分の世界が広がっていくことを実感しています。このようなつながりを大切にして、少しでも早く技術士の資格を取得し、今回助けていただいた方々に恩返しをしていきたいです。

最後になりましたが、受験にあたってアドバイスをいただいた方々、投稿の機会を与您と下さりました広報委員の皆様、厚くお礼を申し上げます。